

コ 5 ク 9 ロー 6 サン 3 ハート通信

VOL. 82

竹原運輸株式会社

発行日 平成 30 年 3 月 15 日

★事務所スタッフからの一言



皆様、日頃は格別のご愛顧を賜りまして誠にありがとうございます。心より感謝を申し上げます。

2月の大雪では、皆様にご迷惑、ご苦勞、ご心配をおかけしました。大変申し訳ございませんでした。やっと道路上での雪も溶けて、走行に支障がなくなり一安心しているところでございます。

さて、今回の雪の影響による大渋滞でまた一つ不安要素が出てきました。それは運送業界にさらに人が来なくなることです。あの状況を目の当たりにすると、トラックの運転は怖い、大変、とさらにイメージが悪くなりました。

そんな中でも弊社に就職してくれる人がいます。仕事の内容は、荷主との協力がなければそんなに変わることはできませんが、会社の中の雰囲気は自分たちの努力で変えることができます。

明るく、楽しく、人として成長できる職場、いい人間関係が築ける職場を創り、少しでも竹原運輸に入ってよかったな、と思える環境を整えたいと誓う、今日この頃です。

竹原和行

弊社が加入しています任意の貨物自動車保険の話ですが、昨年一年間の無事故への取組の結果、お陰様で一昨年に続きまして最高割引率75%を今期も継続することが出来ました。有難う御座いました。

先月の大雪では、連日のように福井の大雪状況が全国放映されました。弊社の車両も国道8号線の立ち往生の中に1台入っておりました。

2月6日午前3時に富山向けに小型トラックが会社を出発して、帰社出来たのが8日午前10時でした。会社を出て、戻ってくるまでに都合55時間かかりました。荷物はそのまま持ち帰りました。石川県に入ることが出来ませんでした。

2月12日には福井県知事より企業の操業を控えるようお願い報道がされるなど大変な雪害でした。

平成30年2月大雪におきまして、全国から激励のお言葉、応援をいただきました。誠に有難う御座いました。又、大雪の影響とは言え、お客様に多大なご心配、予定通りの配送が出来なかったことに対しまして、申し訳ない気持ちで一杯で御座居ます。今回の大雪の経験を踏まえまして、今後の雪に対する備え、お客様に対する迅速な情報提供、ドライバー教育等、更に万全の体制でお客様の信頼にお応え出来るよう努力してまいります。



社長 竹原正和

何事もほどほどに

今年は例年のない寒波に見舞われ、福井では37年ぶりの記録的な雪で、JR、高速、国道と交通ルートが積雪や圧雪に見舞われストップしてしまい、国道8号線では、48時間以上1400台の車両が立ち往生して交通マヒを発生させてしまいました。

その間車両の中で閉じ込まれ身動きが出来ない状態で死者まで出す始末でした。

私の小さい頃の経験で38.56年豪雪の降雪地帯で育ち豪雪を経験して来て、日々の生活にも苦しめられてきたはずであったのに、今回みたいな大騒ぎになってなかったのではないかと思います。

いままで私は、雪の白さは世の中の汚れや醜さを全て削り落としてくれ、あの美しい結晶を見ると何と素晴らしい趣があるものだと思っていました。新潟の話ですが、川端康成の「雪国」。長いトンネルを抜けるとそこは雪国であった……。なんて雪の持つ美しさは詩情があるものだと思っていました。

雪はこのように美しく親しく身近なものだといままでは思っていました。勝手なもので、ここまで降り続いてしまうと、雪害であって雪を敵視してしまい嫌になってしまいます。

今悪夢を思い起こすと、2月6日未明から降り始め7日の朝は雪で身動きが出来ない状態で、早朝からスコップ片手に埋れた自家用車を出す作業のため雪をかき分け、疲労困憊になりながら、圧雪のガタガタ道を通常20分ぐらいで会社に行けたものが、3時間余りかけながら声を出す気力すらなくなり、やっとの思いで会社に到着してみると、荷主様からの電話が鳴りっぱなしで、部門長は対応に任せてこ舞の状態、部門長（運行管理者）の判断では、無理をして出発して渋滞に巻き込まれてしまうと圧雪で通行車輻に迷惑をかけることになるし、トラックが邪魔をして除雪作業の迷惑にもなるし、無理して装備をして出発させても危険な状態に向かわず事も出来ず、立ち往生してしまっただけの雪と、氷点下の中でつらさを無数にさげ、車の中で1人孤独にさせたくない、非常にリスクが高くそのような時車両は出発させたくない。しかし荷主様から依頼があれば出発させざるを得ない。運行管理を担当する部門長は板挟みになり、頭が混乱状態でパニックになっておりました。

運行管理、整備を担当する責任者は、会社に2晩泊り込み、すでに出発しているドライバーの健康状態等をチェックしながら励ましの連絡で必死でした。

今振り返って見ると、何が起こるか判らない「北陸での気象状況」の中で、雪に慣れていない県外の車両がタイヤチェーンも持参していない、装着の仕方すら知らない、オールシーズンタイヤのみでの雪国への運行業務を控えてもらえておれば、今回のような状態は発生せず、皆様に迷惑をかけずに済んだのではないかと思います。

雪もしかしりですが、運行も無理をさせず、何事もほどほどにしたいものです。

齊藤 洋一





ようやく春の気配を感じられるようになりました。春といえば出会いと別れの季節とよく耳にしますが、新年度として新たなスタートをする月替わりで色んな人生の出発点であると思います。

日本料理の料理人になりたいと家を飛び出し、友達もいない街で一人暮らしを始めたのは30年前のことです。右も左もわからない状態の私に世間様はとても優しく接してくれたことは感謝の一言に尽きると思います。

毎日、アパートから自転車で通っていたのですが店の裏通りに少しのスペースがあり「路地裏」に自転車を止め店まで歩く毎日でした。社会人1年生の私に春の風はとても冷たく「サー」と風が吹き込んできて「寒いな…怖いな…オレこの先どうなるんやろ？やっっていけるのかな～？」ってその場所ですごく思ってたのをよく覚えています。

何年か経って。結局、板前は辞めてしまったのですが、今の竹原運輸にお世話になって少し余裕がでてきた頃です。無性にその「路地裏」に行きたくなりまして、行ってみました。「あの時は寒かったし怖かったな。今はそうでもないな。しかしこここんなに臭かったっけ？」なんて思いながら。。それから何回か、ふと思った時に「路地裏」に行っていました。

何年か前の大晦日にその「路地裏」の近くで用事があったので久しぶりに行ってみたのですが、もうその場所はなくなっていました。行政の区画整理か再開発か詳しいことは分かりませんがなくなっていました。「路地裏」がどこにあったのかも分かりませんでした。「あ～もうなくなったんや～」なんて思いながら帰路につきました。

このハート通信を読んでいる皆様にも私でいう「路地裏」みたいなものがどこかにあるのかな。と思います。

初心忘れるべからず。とある通り、社会人31年生の春も私を育ててくれた「路地裏」の冷たい風と温かい人様に感謝を忘れないようにと「路地裏」に想いを馳せる所信です。



池上則和

福井では37年ぶりの記録的な豪雪となった冬もようやく終わり、日増しに春らしくなっ
て参りましたが、皆様お元気でしょうか？

日頃よりご愛顧いただき誠に有難うございます。

さて、3月に入り年度末の慌ただしさと、引越も一気に繁忙期となり会社全体が一丸とな
って日々の仕事をこなしているところです。

そんな中、今年はメディアを通して「引越難民」という事がよく言われています。「引越
難民」とは、引越を希望する日に引越業者見つからず引越ができないという状況の人たちの
ことです。以前から話題となっていました、今年はさらに「引越難民」が増えると言われ
ています。その理由として、引越をする業者の人材不足、また働き方改革による長時間労働
の抑制で、大手を中心に引越の受注件数を抑えていることで、引越をしたい人より引越業者
の受け入れられる数の方が少ない事、それにより引越料金が高騰していることなどがあげら
れます。

弊社も微力ながら引越業務をさせて頂いておりますが、今年については「引越難民」とい
う現象が社会的に広がっており、引越依頼の電話も日程を指定するのではなく、何日頃まで
に引越をしたいのですが可能でしょうか？という方が多くおられ、その方々は何件かの業者
に断られたのだろうなと思い、できる限りの対応をしておりますが、お断りする場合も多々
あるのが実情です。

弊社においても人材不足は否めませんが、今年も弊社の引越スタッフは、常にお客様の立
場になり、心のこもったサービスで感動を与えるような引越を心掛け日々頑張っ
てまいります。



大橋 哲夫

いつも大変お世話になりありがとうございます。

2月には短時間に大雪が降った影響で大規模な立ち往生が発生して、県内の配送がほぼ滞る事態になりました。

雪が溶けた今、数時間かけ苦労した道路を通ると『あれ？どこだった？』と感じる程短い距離ですが、大雪原のど真ん中に取り残されていたような錯覚を抱いていました。

乗務員から伝え聞いた話では、一日以上遅れて到着した納入先様で、『よく来てくれた、大変だったね。少し休んでからでもいいよ』と声をかけられ、やっと安心したそうです。

3月に地元の清掃活動で渋滞していた道路のごみ拾いをしました。

例年よりはやや多くのごみがありましたが、10数年前よりは確実に少なくて、モラル向上を実感致しました。

3月4月は新一年生の季節です。

交通安全はもとよりヒヤリハットを感じさせない運転を上げていきたいと思います。

辻川 伸吾



暖かい季節となって来ました。雪も解けてタイヤ交換の時期になりますね。

毎回の事なので皆さん手慣れたものだと思いますが、タイヤ交換の時期というと冬と春の時期は走行中に車両からタイヤが外れて飛んでいくという事故が件数も非常に多くなります。

特に今年は大雪で道もガタガタになり、車へのダメージも大きかったのではないかと思います。ナットの締め付け不足や、ボルトの金属ひろうなども考えられます。タイヤ交換の際に、ボルトに亀裂が入っていないか、また、ナットを緩める際にもともとゆるくなっていなかったかなどもあわせて点検するといいかもしれませんね。

また、最近増えて来ているスペアタイヤの落下事故、主にトラックですが、スペアタイヤをつっているチェーンが腐食により切れて、落下する事故が増えて来ている。

走行中のトラックとは十分に車間を開け、いろんな出来事に対応できるようにしておいた方が事故には巻き込まれにくいと思います。

車間距離も意識して運転して行きましょう。

谷口 学



日ごとに暖かさを感じられるようになりましたがいかがお過ごしでしょうか。
2月初めには37年ぶりの大雪となりました。
被害に見舞われた方々謹んでお見舞い申し上げます。
また、沿線各地にて雪降る中、助けてくださいました方々ありがとうございました。
私事ですが、今回の大雪の日に、祖父が105歳で永眠しました。
いつも元気いっぱい、いろんな所へも連れて行ってくれました。とにかく囲碁が大好きで、
囲碁クラブに行くために、自動車でなく自転車に、99歳まで乗っていたじいちゃんでした。
まだまだ思い出がいっぱいあります。
さすがに105歳の長寿のお葬式となると、いとこまでは分かるのですが、あの子は誰の子
供で婿さん嫁さんなどとかで、会話がはずみました。悲しみもありますが、みんなで寄せ
書きをして多かったのが（長生きをしてくれてありがとう）でした。
今の時代、長生きをしてくれてありがとうという言葉は、中々ないのではと感じたのは私
だけだったかな・・・。

じいちゃん、ありがとう 安らかに。

越 邦治



いつもお世話になっております。寒い冬が終わり、やっと春が来ます。

我が家では、最初主人がインフルエンザA（毎年予防接種は受けてます）にかかり、なかなか熱が下がらず、食欲もなく痩せたので心配しました（少し羨ましかった）が、今度は私が初めてインフルエンザになりました。当然主人と一緒にAで、今まで一度もインフルエンザにかかったことがなかったので予防接種もしていません。主人を見ていたので、これは大変と思いきや高熱は1日だけ、食欲あり、次の日には母親が危篤になりインフルエンザどころではなくなりました。

結局会社をインフルエンザで休んだというより、母親が亡くなって休ませて頂きました。その後福井は大雪となり、毎日朝早く、夜遅くと雪掻きの日々であっという間に過ぎた平成30年の2月でした。

56豪雪は高校生だった為か、確かに大雪で大変だった記憶は残っていますが、今年程大変だったという記憶はありません。当時両親が色々としてくれたと思うと、親のありがたさを・・・忘れられない年となりました。



吉川 佳代

いつもお世話になりありがとうございます。3月は長男の卒業式です。先日、幼稚園の卒園式の日「未来へのポスト」に入れた子供への手紙が家に届きました。あの頃は6年後なんてまだまだ先の話で、小学校6年生になった姿なんて想像もできませんでした。2年前は、姉弟3人揃ってのランドセル姿の見納めで、今年は2人揃っての姿の見納めです。なんだか傍から離れていくようで寂しいような気がします。

子供はというと中学生になるのが楽しみで、自転車で通学するのが嬉しくて、部活をするのが嬉しくて……。でも暗くなってから自転車で帰ってくるのは怖いみたいで、「お姉ちゃんと一緒に帰ってこようかな」なんてかわいい事を言っています。部活はお姉ちゃんと同じ卓球部に入るみたいで、今から公民館やお友達の家で練習しています。いろんなことに挑戦して楽しい中学校生活を送ってほしいです。2年後の立志式が楽しみです。この子はどんな言葉を叫ぶのかな……。



水谷 有基

次回もお楽しみに……